

平成16年度第4回郷土研究講座

佐賀の笑い話

— 肥前盲僧の民間伝承 —

日時：平成17年3月6日
会場：佐賀県立図書館会議室
講師：佐賀民話の会
会長 宮地 武彦氏



1. 笑い話とは

笑い話は現実の生活、身近な事柄が題材になり、特に笑いの部分に重点が置かれ、気楽に話される。だから、世間話の世界と重なり合う場合が多い。

2. 盲僧(座頭)とは

僧形の盲人芸能者、特に琵琶法師を言うが、平家語りの座である当道派とうどうはに属さない者の呼称として専ら使用される。

当道座頭は、南北朝時代の『看聞御記』かんもんぎよきによると、地神経じしんきょうを弾じていることも分かる。近世になると、当道派の座頭が地方の盲僧集団組織に組み込もうとして対立を示した。この座は琵琶で平家を語り、多くは芸能中心であった。しかし、肥前の場合は当道座に属していないので宗教的な盲僧（座頭）であり、笑い話の伝承伝播者でもあった。

その他、盲僧の中には鍼治療、琴、三味線などで生計を立て、検校けんぎょうの支配下にあった。

肥前の盲僧の呼称は、琵琶弾きさん、琵琶弾き

おんちゃん、寒座頭、座頭寒、木原座頭、川久保座頭であり、芸能的な呼称は、佐里の琵琶法師、軍談語り、釜節語かまぶしがたいなどである。

3. 佐賀の座頭話

これまでの先行研究で柳田国男氏は、梅野座頭を指摘している。一方、花山院親忠氏は神埼櫛田の盲僧が宗教的であると述べ、梅野の盲僧の場合は宗教的・文芸的という視点でとらえている。つまり、宗教的なものと文芸的なものを共存してとらえたのではないかと推定されている。

梅野座頭と櫛田座頭に於いては、櫛田も大蛇退治伝説を伝承している。黒髪山の大蛇退治伝説は物語的である。櫛田の場合は地名起原を述べている。黒髪山の大蛇伝説は諺が付随している。『日本伝説体系』の13巻には、黒髪山の大蛇伝説を的確にとらえている。

また、他の地方でも地名を連続的に語っている。開聞岳ひらききの枚聞神社の地名の由来を伝えている。櫛田神社の例も類似している。このパターンは、古事記の形式と共通していると考えられる。

4. 肥前の釜節語い

福岡の成就院に登録されている肥前の盲僧は、宗教活動以外の平曲を語ることをダブーとしていた。しかし、平曲や段物の伝承の事実が存在していた。成就院の肥前の盲僧は、師匠から破門された者、転派した者を「釜節語い」と言う。肥前の釜節語いは、生計のため門付けで平家のくずれを語った。